

『数学通信』27 巻 4 号（1 月 16 日締め切り），編集後記

矢崎 成俊（やざき しげとし）

====ここから====

最近読んだ本，読みかけの本の備忘録▶田渕久美子『ヘルンとセツ』。島根大学での集中講義の合間に寄った今井書店で見つけた。松江ゆかりの小泉八雲（ヘルン）と妻セツの宿縁を書いた本で，書店入口に平積みされていた勢いに寄り切られ購入▶一般に小説の舞台となっている場所で読むのは格別だ。志賀直哉『城の崎にて』を城崎温泉で読むと石畳に響く下駄の音が小説の BGM になる。川端康成『雪国』を湯沢の高半の部屋で布団に包まって読めば駒子が出てきそうな気分を味わえる。カフカの『城』や『審判』をチェコのプラハで読んだら不条理という感覚が腑に落ちる。『変身』もプラハで読めばよかった。そしたら虫になった主人公の気持ちに共感できたかも▶奥田英朗『罪の轍』を衝動買い。1 行目から小説にのめり込めた。情景を浮かばせる筆致▶輪入道『俺はやる』は我が家のラップブームに乗って購入。小生，韻一つ捻り出すのに頭をフル回転させるからぼけ防止になる。これなら「老いるショック」に抗えそう。晋平太『フリースタイル・ラップの教科書』を読んでライムのスキルをアップしよう。並行して押野素子『今日から使えるヒップホップ用語集』で基礎単語を学べば，「この曲の 1 番の歌詞が最高」という代わりに「この曲，ファースト・ヴァースのリリックが超イル」といえるようになる・・・はず▶最後に 2 冊。東北大学での集中講義のためにサイモン・シン『暗号解説 [上・下]』を再読。

====ここまで====（600 文字）